



丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く～

平成 29 年 9 月 29 日 (金) No. 6
横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

対話から広げる子どもたちの学び

校長 新井 篤志

昼間は暑くとも風が涼しく、空気も澄んでいて、空も高く感じられる、まさに天高く馬肥ゆる秋となってきました。10月14日(土)には運動会が行われます。児童が話し合っ
て決めた今年のスローガンは「一致団結 最後まであきらめない運動会にしよう」です。
子どもたち一人ひとりが演技や競技等に一生懸命に取り組む姿を見せてくれると期待して
います。そして、運動会を通して学級、学年、学校全体が絆を深められるように、教職員
一同子どもたちを支援していきます。

運動会のスローガンに限らず、学校教育においては代表委員会を通して子どもたちの学
校生活における活動等を自分たちで考え、決定し、実行していくことを大切にしています。
これはクラスで行われる学級会も同じです。代表委員会の原案は各クラスで話し合わせ、
話し合っ
て出された内容をもちよって物事を決めていきます。一人ひとりが自分の思いや
考えを出し合い、物事を決めていくこのプロセスは民主主義社会のルールを体験を通して
学んでいると言えます。特に、意見が分かれたときは重要な学びの場面です。AかBかを
単純に多数決で決めるのではなく、それぞれの立場を理解し、どのようなものが最終的に
良いのかを導き出していくことが大切です。

総合的な学習の時間が日本でも行われるようになった背景をみると、日本だけでなく
世界のいろいろな国々でほぼ同時期に、問題解決を図る力を育成することが重要である
と叫ばれていた頃でもありました。世界の国々をみると文化や習慣が異なり、考え方も多
様であることは周知のことと思います。自分たちと異なる考えをいかに理解するか、同時
に自分たちの考えを相手にどのように伝えて理解を図るかが大きな命題としてありまし
た。こうしたことを受けて対話的な学びによる課題解決は新しい学習指導要領でも重視され
ています。相手とのコミュニケーションをどのようにとっていくかは今に始まった課題では
ありません。今までも取り組んでいましたが、これからもずっと取り組んでいかねばなら
ないことです。

6年生の社会科の学習では住民の意見を施策として実現していく過程を具体的な事例を
もとに学びます。いろいろな意見をもとに施策を決めていくまでには時間がかかります。
丁寧に様々な人々と意見交換をすることの意味と大切さを実感できたらと考えています。

